

# ミャンマー旅行所感

徳之島「夢」振興会議理事、日本経済大学大学院 事務室長

川畑進 (山出身)

## 1 初めに

奄美群島の徳之島の北東部、天城岳の東側海岸沿いに山(さん)という水豊かで風光明媚な村がある。

ここが私の故郷である。私は昭和46年3月末、徳之島高校を卒業すると間もなく上京した。

浪人生活1年後、防衛庁の仕事に入り以後、渡り鳥のように北は北海道(長沼)から南は沖縄(那覇)まで計8箇所の勤務経験をした。この間、2回の米国(テキサス州)留学を経て定年2年前からは神奈川県川崎市に在る東芝小向工場に常駐し、装備品の調達品等に係る監督・検査業務に従事した。

定年後は、都内の東京マルチメディア専門学校勤務を経て現在、日本経済大学大学院事務室で勤務している。昨年都内のある日本語学校の外国人経営者と歓談の折、自分の出身地に言及した。すると、当経営者から同郷の「津田司法書士事務所」の津田和紀様には、お世話になって

いる」との話題になり、即刻、携帯電話で取次いでもらい、それがきっかけで意気投合し談笑した。津田先輩からの話の中で「自分の故郷を忘れてはいけない」との話が私の脳裏に残った。世の中狭いものである。

その後、徳之島「夢」振興会議の話があり、徳田昌則理事長や各先輩方が「徳之島花いっぱい運動」など故郷の振興発展の為に尽力されている事を見聞きし、私も『徳之島「夢」振興会議』の一員となって皆さんと共に今後何か微力ながら努力して行きたいと考えた。今年度の会議に参加させて頂き、関係者の皆さんには深く感謝している。

昨年八月末から約2週間、同大学の奄美加計呂麻島出身の叶芳和教授の力バン持ちとして同大学のミャンマー共和国連邦(通称ミャンマー)出身であるミヤッカラ准教授と共にミャンマー旅行をした。今回の旅行は、叶先生の提唱する「民主化に沸くミャンマー」への企業進出は多いが、

エンジニアや専門職の人材は不足している。これでは直ぐ、成長の壁にぶつかる。持続的な経済成長のためには、高等教育の普及が必要であろう。ミャンマーへの支援もこの視点が必要である」との理論に基づきミャンマーの関係者に「国立の高等専門学校の設立構想」を提言する事が主要な目的であった。この間、ヤンゴン市内の縫製工場、ヤンゴン工科大学や高等学校の訪問、首都ネピドーの政府関連施設を訪問した。ここでは「縫製工場見学」、「高校(小、中高)訪問」、「僧院訪問」、「ミャンマー料理」について一旅行者の立場からの所感を述べて皆様の海外旅行等への夢実現の一助にしたいと考える。

## 2 ミャンマー

朝、車でヤンゴン国際空港から市内へ向かう。車の窓越しから外を見ると自転車のサイドカーに網袋(玉ねぎや果物)を幾重にも積み込み、手押しで道路を横切る人々など、街は活気に満ちている。男子は半そで又は長袖、下に質素なロンシン(腰巻)、サンダル履き、女性もカラフルな長袖の上衣に同じ立ち方である。中には頭の上で髪を結び、顔(頬や額)には太い白線を付けている女性もいる。突然、ザザーと道路を叩きつけるよ

うなスコールが来た。雨に煙る道端を朱褐色の法衣を纏った一団の僧侶が各々鉢を持ち、整然と一列に並んで黙々と素足で進む姿が見えた。私は、これまでとは違う世界へ入った。

ミャンマーは、東南アジアに位置する共和制国家。(1989年までの名称はビルマ)。インドシナ半島西部に位置し、中華人民共和国、ラオス、タイ、バングラデシュ、インドと国境を接しており、地政学的にも貿易上の地理的重要・優位性は大きい。行政区分は7つの管区「ヤンゴンやマンダレー等、主にビルマ族の住居地域」と7つの州「ビルマ族以外の少数民族の居住地域」がある。各州には民族名(カレン州、カチン州、カヤー州等)が付いている。その多くが分離独立や自治拡大を求めて中央政府と長年戦ってきた。首都はネピドー(旧首都はヤンゴン)人口総計は約6200万人、最大都市ヤンゴンの人口は約700万人であり、消費市場として大きな魅力がある。位置的には北緯10〜27度、東経92〜101度の間に在り、那覇とカチン州の州都ミッチーナがほぼ同じ緯度に位置する。主要産業は、農業が基盤でチーク材、石油、天然ガス、宝石、海産物(エビなど)の天



然資源も豊富であり、この国はインドシナ半島の経済優等国であった。しかし、IMF(国際通貨基金)の2013年度版統計データ「一人当たりの名目GDP(国内総生産)によれば、現在のミャンマーは8004・6ドルの159位でアジアでも最貧国である。この転落の主な理由は1988年の政変以後の軍事政権の圧政に対し欧米が経済制裁を発動した事にあると言われている。

ヤンゴン市から首都ネピドー市に至る間では治安は安定し両都市のホテルも各国からのビジネス関係者でほぼ満員であり、民主化に向けて漸次進展しつつあるのが現況である。多くの人々が親日的で最新の技術を持った日本への憧れが強く、留学を目指して日本語を勉強している学生も多い。2015年にはASEAN(アセアン:東南アジア諸国連合)